

日本の文化、世界に発信 生涯かけて温泉三昧



温泉学会副会長（元大阪市立大副学長）
藤田 勝利さん（73）

小さいころから実家に近い城崎温泉に浸かってきた。そのせいもあって大学は東北大に。法律を学ぶ傍ら4年間、各地の山登りと名湯、秘湯巡りに明け暮れた。卒業して本学法学部と近畿大で学生生活を送るようになってからも温泉好きは高じる一方で、学生とのゼミ旅行や余暇を利用した家族旅行は決まって温泉へ。12年前には温泉学会副会長に就任し、地域起こしや環境保護などをテーマにシンポジウムを開いて、さまざまな提言をしている。また、留学で来た教え子のいる中国に日本の温泉文化を紹介するなど古稀を過ぎた今も「生涯、温泉三昧」の活動は衰えるところがない。

——温泉の楽しみ方から。

藤田 4つのタイプに分かれると思います。1つ目は奈良時代から文献に見え、江戸時代以降盛んになった湯治。疲労回復や病気療養が主な目的です。東北にはまだたくさん湯治場が残っています。2つ目は登山やスキーなどスポーツと一体になった利用。3つ目は会社の親睦会など大勢で利用するもの。石川県の山代霧島温泉や和歌山県の勝浦温泉、鹿児島県の林田温泉など

が浮かびます。最後は日帰り温泉や温泉付きマンションの購入。

どのタイプにしる集客力のある温泉はどれも個性や地域の特徴を打ち出すことに成功しています。例えば、城崎温泉なら昔ながらの外湯巡りの風情と泉街の景観の良さ。三朝温泉はラジウムによる健康作り。ドイツ人医師、ヘルツが絶賛した草津温泉は十返舎一九や小林一茶も訪れた名湯の風格を守り、小さな共同浴場と河原に広大な露天風呂があります。

最近ブームなのが4つ目の日帰り温泉。日本は火山列島で都市の近郊でも1000戸か1500戸も掘れば温泉が出ます。掘削技術の発達と街おこしで各地にこうした新しい温泉がたくさん出ています。私の住む三重県名張市の近郊でいうと、伊賀市の「さるびの温泉」。私が10年かけて探しあてた、いい温泉です。数年前まで週に一度、毎回360ℓの温泉水を買いに行き、自宅の風呂に入れて楽しんでました。ススキが美しい奈良県・曾爾高原にある「お亀の湯」もお勧め。弱アルカリのヌルツとした肌触りで神経痛などに効き、露天風呂に浸かりながら高原の

ゼ
ツ
ク
バ
ラ
ン

大パノラマを楽しめます。

今は高齢になって家族から止められていますが、私が好きなのはやはり2番目の山登りをした後、地元の名湯に入る。八幡平と後生掛温泉、八甲田山と酸ヶ湯温泉や葛温泉、秋田駒ヶ岳と国見温泉や乳頭温泉、安達太良山と岳温泉など、学生時代の思い出が今も蘇ります。

——温泉を活用して地域起こしの例を。

藤田 例えば奈良県の十津川温泉。人口3、400人ほどの山間の過疎村にありますが、熊野古道など歴史遺産にも恵まれ、「心身再生の郷」をめざし、村をあげての観光客誘致に取り組んでいます。私も作家の司馬遼太郎さんが「街道をゆく」で宿泊した旅館の同じ部屋に泊まったことがあり、いろいろな想いにふけて心身がリフレッシュしました。有名なところでは街全体をオシャレな感覚で包み、若者にも人気の九州の由布院温泉や黒川温泉などがあります。

私の所属する温泉学会は本物の温泉を後世に残そうと、温泉愛好家や旅館の経営者、学者やジャーナリストらが集まる団体で、会員数は200人弱です。毎年2回、「日本秘湯を守る会」や各地の温泉関係団体の協力を得て、

全国大会を開いてきました。開催地は各地の温泉で、地元の自治体や旅館関係者を招き、各地の温泉の取り組みや情報を提供しながら意見を交わし、シンポジウムも開いています。各地の温泉で大会を開くのは、地域起こしの

地熱発電の影響、心配

——温泉をめぐる問題は。

藤田 地熱発電による温泉への影響があります。地球温暖化対策で自然再生エネルギーとして注目されているのが、風力発電、太陽光発電と並んで地熱発電。2011年3月の東北大地震による福島原発事故も追い風になっています。総発電量に占める割合はまだまだ少ないが、日本は火山大国とあって地熱資源は世界3位といわれます。

地熱発電は地下で対流する火山性の熱水や蒸気をパイプラインで地上に誘導して熱源とするもので、比較的規模の大きい地熱発電所は全国で20か所ほどあります。

10年ほど前、群馬県嬭恋村で発電計画が持ち上がり、そこから数キロ離れた草津温泉のある町議会は地下の泉源に影響する可能性があるとして反対決議し、計画は立ち消えました。因果関係ははっきりしませんが、すでに稼働中

起爆剤になれば、と考えるためです。名だたる温泉地の多くは過疎地であり、若者は都会に出てこの旅館、ホテルも後継者問題が深刻で、人材を发掘し、いかに育てるか、が共通の悩みです。

の地熱発電周辺の温泉で「湯量が減った」などの報告がいくつもあります。福島原発事故による風評で観光客が激減した土湯温泉のように小規模なバイナリー発電の活用により、新産業の創出や地域活性化に役立っている例もあるようですが、大規模な地熱発電が計画されている地域では、温泉への影響を懸念する声が地元の関係者からあがっています。

地熱発電の場所は国立公園近辺が多く、箱型の建物が景観を損ねる、さらに地中から汲み上げた熱水などには重金属も含まれ、排水時に環境を汚染する恐れも指摘されています。温泉学会では約6年前に「地熱開発業者と温泉事業者による長期的かつ継続的なモニタリングの実施」などを求める要望書を環境省に出しました。大深度掘削で誕生した、都市近郊の日帰り温泉では地盤沈下や地下水脈への影響が論じら

れ、多くの自治体が規制するようになりました。

——もう10年以上前ですが、長野県の白骨温泉などで温泉の不正表示が発覚しました。

藤田 背景の一つに温泉法の不備があります。同法で「温泉」と認められるのは、水素イオンなど所定の成分を一種類以上、基準値を超えて含み、摂氏25度以上ある、地中から湧出の温湯水や水蒸気などです。これは源泉を規定するもので、源泉からパイプで引いた旅館や公共施設の浴場や湯舟には適用されません。宿泊施設の浴槽で温泉に加水しても規制の対象にならないわけです。かつて問題になった不正表示というのは温泉自然の白濁色を装うために入浴剤を投入したり、水道水を加熱して温泉と偽ったものです。もちろん、モラル的には許されませんが、温泉法が、源泉から施設などに引いたあとの温泉の湯舟について規定していないのが問題です。

もうひとつの背景としては源泉や湯量の減少。開発や気候変動などいろいろな要因が考えられますが、地震や火山活動で湯脈が断ち切られたり、温泉の質が変わることも少なくありません。先の熊本地震では由布院や黒川温泉に大きな被害を与えたそうです。さらに



北海道・まっかり温泉

新規参入の業者による掘削が既存業者との間でトラブルを生んでいます。群馬県の水上温泉では、湧出量への影響をめぐり、裁判沙汰にまでなりました。湯量が減り続けると、源泉かけ流しもだんだん難しくなります。

温泉学会では「湯船での成分表示」「加水の割合」など適切な情報開示を求め、さらに適正な掘削手続きを定め



湯ヶ島温泉・川端康成が「伊豆の踊子」執筆した宿の露天風呂

るよう「温泉法」の改正を求めています。温泉は日本の文化です。海外からも注目され、オーストラリアのメルボルンでは日本の銭湯が開業し、好評ですし、中国の揚州市や杭州市では日本式の温泉リゾートの開発が検討されています。教え子の中国人が現地で弁護士をしていることもあり、私もその相談にあずかっています。これからも温



曾爾高原「お亀の湯」入口

泉を通じ、日本の文化の良さを守り、世界にアピールしていきたいと考えています。

×

×

×



山中温泉



霧島温泉・NHK大河ドラマでのロケ地